

社団法人日本新体操連盟

平成19年度第1回総会議事録

1. 会議名： 平成19年度第1回総会
2. 日時： 平成19年5月31日（木）11時00分～11時35分
3. 場所： 東京都港区芝公園2-5-20 「メルパルク東京・薔薇」
4. 構成員現在数： 511名
5. 出席会員数： 406名（うち委任状出席者381名）
以下出席会員
JOY新体操クラブ（小金井）、Kirri RG、
Sweet・ピュア・R・G、グレース、ジャスコおゆみ野
ジャスコマリンピア、ジャスコ新松戸、
ジャスコ新体操スクール行徳校ジャスコ新体操スクール船橋校、
イオン、ピュアR.G、ふじしまジュニア新体操クラブ、
ふじしま新体操クラブプラザモモRGグループ、
プリティーコスモス、ホムキ新体操クラブ、秋川新体操クラブ、新
体操クラブ メチタ、大宮ジュニアRG、調布RG、
長泉新体操クラブ、富士川R.G、富士川RG ジュニア
舞Kids R.G、舞Kids R.P.G.
6. 欠席会員数： 105名
7. 出席役員： 二木 英徳（会長） 高橋 明（副会長） 福本 隆（副会長）
石崎 朔子（常務理事） 渡辺 守成（常務理事） 池田真喜子（理事）
岩本 晃（理事） 上村 郁子（理事） 岡 久留実（理事）
谷口 裕代（理事） 橋本 千波（理事） 山崎 浩子（理事）

朝倉 正昭（副会長） 荒井 隆（専務理事） 関田史保子（常務理事）
秋山エリカ（理事） 崇島 慎一（理事） 谷原 誠（理事）
藤島八重子（理事） 田中 元（監事）
以上20名（うち委任状出席8名）
8. 欠席役員： 横田 章（監事）
以上1名
9. 議案：
決議事項
第1号議案 平成18年度事業報告承認について（定款第5,29,39条関連事項）
第2号議案 平成18年度収支決算報告承認について（定款第29,39条関連事項）
第3号議案 その他
10. 議事の経過及び結果
(1) 議長による開会宣言
（社）日本新体操連盟・定款第28条の定めにより議長を会長二木英徳が勤め、開会宣言を行った。
(2) 議事録署名人の選出
定款第32条により、議長は議事録署名人を上村郁代理事と岡久留実理事にする事を議場に諮り承認された。
(3) 定足数の確認
定款第30条により総会出席者数委任状含めて406名であることが岩本晃理事より告げられ、議決定足数を満たしている事が報告された。
(4) 議決事項
第1号議案 平成18年度・事業報告承認について（定款第5,29,39条関連事項）
議長は説明者として石崎朔子常務理事を指名し、石崎常務理事は下記内容の説明を行った。

1. 平成 18 年度登録状況報告について

平成 18 年度は

加盟団体数	511 団体（前年度 479 団体）
登録選手数	8,357 名（前年度比 106% 増）
愛好者数	33,378 名（前年度比 110% 増）
審判員数	1,005 名（前年度比 107%）
指導者数	1,332 名（前年度比 107%）

と全ての部門において前年度を上回る登録数を頂いた。

2. 「第 15 回全日本新体操クラブ選手権」について

8 月 22 日から 24 日に掛けて「東京体育館」にて開催された。

参加者は過去最多の 206 クラブ 618 名が参加し、クラブ対抗で千葉県「イオン」が 15 連覇を成し遂げた。

この大会は「イオンカップ世界クラブ選手権」と「全日本選手権」の両大会への出場権を獲得できる大会である。しかし両大会の年齢基準が異なるため、今大会では 15 歳の選手にシニア、ジュニアを選んで出場して頂いた。

「イオンカップ」へはクラブ対抗上位 3 チームが出場権を獲得。

「全日本」へはシニア上位 12 名が出場権を獲得した。

3. 「第 6 回全日本新体操クラブ団体選手権」について

9 月 9 日「東京体育館」にて開催された。

参加者は過去最多の 100 クラブチーム 646 名が参加し、シニアの部で熊本県「熊本 R G」が 2 連覇した。

この大会からの「全日本」への出場権は「シニアの部」上位 2 チームの「熊本 R G」と「N P O ぎふ新体操クラブ」が出場権を獲得した。

4. 「イオンカップ 2006 世界新体操クラブ選手権」について

資料に誤植があり、「イオンカップ 2007」とあるが「2006」と訂正いただきたい。

大会は 10 月 15 日から 19 日に三重県の「三重県営サンアリーナ」にて「ワールドカップファイナル」と同時開催した。

毎年同時開催している「日本新体操祭」は「ワールドカップファイナル」の関係上、18 年度は延期した。19 年度は 10 月 6 日に開催予定。

参加は新体操強豪国を含む 17 カ国 19 チーム 57 名が参加し、ロシア「ガスパロム」が大会 8 連覇を飾った。

日本からの出場チームは「イオン」が 6 位、「飛行船新体操クラブ」が 12 位、「N P O ぎふ新体操クラブ」が 15 位であった。

個人では「イオン」穴久保璃子選手がジュニア個人総合第 5 位に入り健闘した。

T V 放映は 1 月 13 日に日本テレビ系列にて放映され、4.8% とスポーツ番組としては比較的良好な数字を獲得した。

5. 「第 9 回全日本新体操チャイルド選手権」

「第 6 回全日本新体操キッズコンテスト」について

2 月 23 日から 25 日に掛けて「東京体育館」にて開催された。

参加者は過去最多の 374 クラブ 892 名の参加し、5・6 年生の部では「ジャスコマリンピア」の柳川佳凜選手が、3・4 年生の部では「宝塚サニー新体操クラブ」の飴嶋莉衣選手が優勝した。

競技運営では、前年度フロア配置に意見をいただいております、今大会では 3 面横並びの配置とし、3 面同時進行で開催した。

この結果、多少の人数増加なら受け入れることができるタイムスケジュールと

なり、平成 19 年度も同様の開催形式を予定している。
しかし、今後も人数増加が予想されるため、東西大会の導入準備を進めている。

6. 「平成 18 年度セミナー」について

「初級集中講義」を 3 回

「上級セミナー」を 6 回

「海外セミナー」を 2 回

「審判セミナー」を 3 回

実施した。その他詳細は資料にて確認いただいた。

7. 「平成 18 年度表彰」について

平成 18 年度は「功労賞」をキャノンマーケティングジャパン株式会社相談役武本秀治氏に「最優秀選手賞」をイオン横地愛選手に贈呈することが平成 19 年度第 1 回総会で決定した。

表彰は 8 月の「全日本クラブ選手権」に授与式を行う予定。

以上の説明の後、議長は質疑、報告等を求めたが発言は無かった。

以上の後、第 1 号議案「平成 18 年度・事業報告承認」について可決された。

第 2 号議案「平成 18 年度・収支決算報告」について（定款第 29, 39 条関連事項）

議長は説明者として渡辺守成常務理事を指名し、渡辺常務理事は下記内容の説明を行った。

資料には平成 18 年度の予算と実績、平成 17 年度の実績を記載し、実績の比較により説明していく。

1. 預金利息について

預金利息は 17 年度の 3, 449 円から金利の上昇、及び定期預金を取り崩さなかった運用で、30, 998 円の収入となった。

2. 会費収入について

会員数が順調に増加し、50 万円ほどの増収となった。

3. 事業収入について

17 年度実績より、2, 135 万円の減収となった。その理由として、

- ・日本新体操祭が開催しなかったため、528 万円の減収
- ・イオンカップ 2006 が三重開催のため、チケット販売 600 万円、物販 250 万円、広告収入が 1, 850 万円と計 2, 700 万円の減収となった。以後地方開催のデメリットを考慮する。
- ・選手強化合宿「上級セミナー」が 50 万円の減収、今後はバッジテストの開催で収益を拡大していく。
- ・刊行物販売が「ワールドカップファイナル」と「イオンカップ」両大会運営のため開発に時間を費やせなかった。今後は商品開発を行い収益を上げたい。
- ・補助金収入が 20 万円減収となった。これは助成団体「SSF スポーツエイド」が「5 年自立大会運営」の方針により年々減額されていく。
- ・増収として、「チャイルド選手権」270 万円、「クラブ選手権」290 万円、「団体選手権」270 万円、「海外研修」430 万円の増収となった。

4. 収入合計について

以上により、平成 18 年度収入は当期収入 2 億 5 1 8 7 万 9 9 7 9 円と前期繰越 1 7 0 1 万 5 5 2 4 円を合わせ収入合計 2 億 6 8 8 9 万 5 5 0 3 円となった。

5. 事業支出の増加について

- ・団体選手権が 17 年度の「千葉ポートアリーナ」から「東京体育館」への会場変更および、チケット制度導入のための警備員経費の加算により 95 万円の増加。しかし、270 万円の増収があるため、利益としては 175 万円の増加。
- ・海外研修会が参加者増による飛行機代の増加、東欧諸国の物価上昇による宿泊費増加により 169%増の 675 万 2803 円となった。しかし事業利益は 98 万円のため、17 年度の 16 万円の赤字から改善されている。

6. 管理費支出増加について

「ワールドカップファイナル」の運営を引き受けたため、人件費、通信費が増加した。

7. 経費減少について

「イオンカップ」は「ワールドカップファイナル」と同時開催のため、17 年度に比べると経費は減少したが、外注スタッフ全員が宿泊の必要がでたこと、同時開催による役員スタッフの増加など、宿泊費、移動費など大幅に経費が増加し、収入 1 億 8700 万円に対し、支出が 1 億 9000 万円と 300 万円の赤字となり、連盟設立以来はじめての赤字事業となった。

8. 支出合計について

以上により、2 億 6 2 4 8 万 8 2 7 5 円の支出となり、2 億 6 8 8 9 万 5 5 0 3 円の収入から差し引き、6 4 0 万 7 2 2 8 円が 19 年度への繰越金額となった。

連盟として設立以来初の 1,000 万円の赤字を計上したが、「ワールドカップファイナル」を開催したことは日本新体操界の発展につながるものと思われる。2007 年度は事業利益を回復し、財政基盤を拡大する。

以上の説明の後、議長は質疑、報告等を求めたが発言は無かった。

以上の後、第 2 号議案「平成 18 年度・収支決算報告承認」について可決された。

第 3 号議案「その他」について

議長は議場にその他議案の提出を諮ったが提出されなかった。

(5) 閉会宣言

議長は他に質問、意見がないのを確認し総会の終了を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、議長ならびに議事録署名人は次に署名押印する。

平成 19 年 5 月 31 日

社団法人 日本新体操連盟 平成 19 年度第 1 回総会

議 長 二 木 英 徳

議事録署名人 上 村 郁 代

同 岡 久 留 実